

Building Sustainable Capability: Long-term Outcomes of Empowerment Mechanisms for Smallholder Farmers and Extension Officers in Kenya

オランギ ピーター ニャムワヤ

<https://hdl.handle.net/2324/7396295>

出版情報 : Kyushu University, 2025, 博士 (農学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	オランギ ピーター ニヤムワヤ Orangi Peter Nyamwaya				
論 文 名	持続可能な能力構築：ケニアの小規模農家と普及員に対するエンパワーメント・メカニズムと能力強化の長期的成果				
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授	氏名	野村久子
	副 査	九州大学	名誉教授	氏名	矢部光保
	副 査	九州大学	准教授	氏名	高橋義文

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

農業分野における持続可能な能力（sustainable capacity）とは、農家および普及員が習得した技能を活用し、変化する環境や課題に自律的に対応しながら、外部支援に依存せずに農業生産性と生計の向上を継続する能力を指す。この能力は、農家自身のエンパワーメント（技能習得、自己効力感の向上）と、普及員の専門的能力の強化という2つの側面から構成される。とりわけ開発途上国においては、小規模農家のエンパワーメント、脆弱層への包摂的支援、普及員の能力強化といった統合的なアプローチが不可欠である。

しかしながら、ドナー主導の農業支援は、しばしば短期的な技術移転や成果志向型のプロジェクトに偏重しており、農家や普及員の長期的な能力構築への影響は十分に検証されていない。この研究ギャップを踏まえ、本研究では、小規模園芸エンパワーメント・プロモーション（Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion: SHEP）アプローチを対象に、ケニアにおいて実施されたランダム化比較試験（RCT）の枠組みを用いて、（1）農家の技能習得とエンパワーメントの関係、（2）脆弱層の自己効力感の育成、（3）普及員の能力構築の持続的効果を実証的に検討した。

具体的には、小規模園芸エンパワーメント・プロモーション（SHEP）アプローチをケーススタディとして取り上げ、ケニアにおけるランダム化比較試験（RCT）の枠組みを活用して、多面的なエンパワーメントのメカニズムを分析した。第一に、3,639名の小規模農家を対象に共分散分析（ANCOVA）および最小二乗法（OLS）回帰分析を適用し、スキル習得が農家の生産・販売におけるエンパワーメントに与える影響を評価した。その結果、ビジネススキルは両領域におけるエンパワーメントと正の相関を示し、世帯管理スキルおよびグループ運営スキルはそれぞれ生産および販売領域における能力向上と関連していた。これらの知見は、これまで強調されてきた所得向上効果を超えて、持続可能な能力構築の意義を裏付けるものである。

第二に、障害者、寡婦、介護者といった社会的に脆弱な農家136名を対象とし、偏最小二乗構造方程式モデリング（PLS-SEM）を用いて、包括的支援の経験、自己効力感の各領域、ならびに長期的な食料備蓄との関係性を分析した。分析の結果、包括的支

援、リーダーシップ育成、SHEP 参加が経営における自己効力感を高め、資源アクセスと農業への関与は生産における自己効力感と有意な関連を持つことが示された。特に、生産における自己効力感は長期的な食料在庫の改善に寄与し、包括性がこの関係を強化することが確認された。これらの効果は、特に未亡人および介護者において顕著であり、介入後の生活改善に対する包括環境の意義を示唆している。一方、障害者に対する影響は限定的であり、障害特有のニーズに応じた政策的支援の必要性が浮き彫りとなった。

第三に、農業介入が普及員の持続可能な能力形成に与える影響を検証した。官民 164 名の普及員を対象に多変量回帰分析を実施し、市場志向の普及サービスに必要な能力との関連を検討した。その結果、全体的な業績には有意差が見られなかったものの、公的普及員は市場志向の実践を見極める能力に、民間普及員は市場への関与能力に優れる傾向が明らかとなった。特に、ファシリテーションおよびリーダーシップスキルが、持続的な市場志向型普及を支える中核的な能力として機能していることが確認された。

以上の結果から、本研究は小規模農家および普及員の能力向上を重視する農業開発プログラムの重要性を実証的に示した。そして、本研究の学術的貢献として、エンパワメントを基盤とする能力構築のアプローチは、農業部門における主要アクターの長期的能力を強化し、持続可能な生計改善を達成する上で不可欠であることを示唆するものである。

以上から、博士（農学）の学位に値すると認める。